

研究推進だより

平成 30 年 4 月 4 日
伊深小学校
文責：古田

1. 目指す児童の姿

【学校の教育目標】 明るく笑顔あふれる伊深っ子
学び合う 思いやる やりぬく

- ・学習に楽しく主体的に取り組む姿
- ・自己の考えを主体的に説明することができる姿
- ・仲間の意見を聞くことで、自己の考えを深めたり、見直したりできる姿

2. 研究主題

【研究主題】 主体的に学び合う児童の育成
～ I C T 機器を活かした算数の指導を通して～

本校の学習における児童の実態を、次のように分析した。児童は自分の考えを持っていれば、主体的に仲間の前で説明をすることができる。しかし、その自分の考えをもつことや、仲間の考えを聞くことで自分の考えをより深いものにしていく姿勢に弱さがあることが分かった。

その弱さを改善するために、I C T 機器の活用が有効であるのではないかと考えた。今年度までに授業のユニバーサルデザイン化について研究を進めてきた。その中での視覚化の工夫を I C T 機器で応用することで、より解決の見通しをもって自分の考えを形成することにつながるのではないかと考えた。また、I C T 機器を用いて交流することで、話し手が自分の考えを伝えやすくなったり、聞き手が仲間の考えをより理解しやすくなったりする。それが自分の考えと仲間の考えを比較して新たな気づきを生み出し、深い学びへつながっていくと考えた。

新学習指導要領の改定のポイントには、情報活用能力としてコンピュータ等を活用した学習活動の充実が記されている。また、文部科学省 2009「教育の情報化に関する手引き」には、I C T 機器を活用することで、教科内容のより深い理解を促したり、知識の定着や技能の習得を図ったりすることができることと記されている。ここで児童が I C T 機器に興味を示し、意欲的に取り組んだとしても、I C T 機器の活用を目的とせず、I C T 機器の活用によって授業改善を図り、児童の学力向上につなげていくことを目的としていることに十分留意する。

3. 研究仮説

授業の中で I C T 機器を効果的に活用することで、見通しをもって自己の考えをもつことや、考えを交流しながら自己の考えを深め合うことができ、主体的に学び合う児童の育成をすることができる。

4. 研究内容

(1) I C T 機器を活用するための技能習得

算数の教科指導の中で活用していくためには、児童にある程度のタブレット端末を活用する技能が必要となる。そのため多くの教科の中で、繰り返しタブレット端末を活用していくことで、児童に技能を身に付けさせたい。また教師自身も電子黒板やタブレット端末を用いてできることの利点を考え、その活用法を研究する必要がある。

(2) 学び合うための I C T 機器を活用した指導の工夫

① 問題把握をし、解決の見通しを持つための場での活用

導入の場面で、問題内容の視覚化を図り、共通理解をすることに活用する。

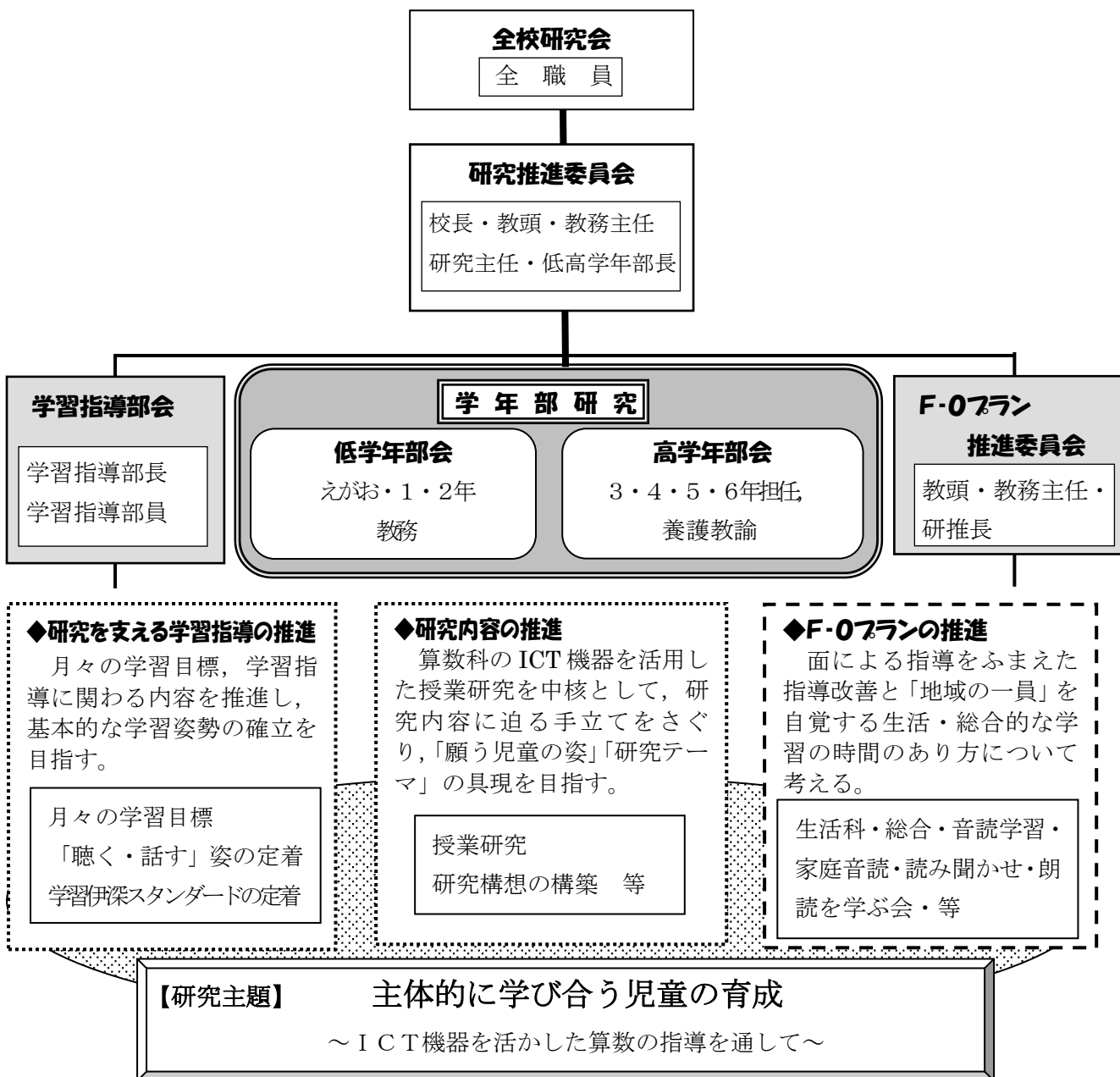
② 自己の考えをもつ場、交流で深め合う場での活用

自己の考えをタブレット端末に残し、それをもとに全体交流をする。

③ 学習内容の定着を図る場での活用

単位時間や単元の終末の場面で習得の様子の見届けに活用する。

5. 研究組織



<研究の進め方>

◆研究推進委員会

月毎に定例の会議を設け，研究構想の構築・研究の推進を行う。

◆学年部研究会

週毎に定例の会議を設け，研究計画に基づく公開授業の授業研究や実践の総括を進める。

公開授業は，全校研究会（要請訪問2回）を行う。

◆全校研究会

研究構想に関わる共通理解・要請訪問時の公開授業指導案の検討・全校研究授業の考察を行う。

<全校研究会までの流れ>

学年部研…教材観や授業の内容の確認
↓
(必要に応じて行う)

研推…研推メンバーで指導案の検討

↓

全研オリ…全職員で授業について確認

↓

全校研究会…公開授業と授業研究会